

コロナ禍における子育て家庭の 困窮実態調査

非常時に必要な支援とは？



NPO法人飛騨高山わらべうたの会

① N P O 法人飛騨高山わらべうたの会の紹介

高山に来た事がありますか？

東京23区より
大きい！



① N P O 法人飛驒高山わらべうたの会の紹介

●コンセプト

子どもの笑顔が未来をつくる

●キーワード

つなぐ

親と子を
つなぐ

過去と未来を
つなぐ

その1 伝統を活かす！

月飛驒の宝物『わらべうた』を子育てにー

その2 自然を活かす！

自然(森)と子どもを
つなぐ

月『ぎふ木育』を
とりいれる



① N P O 法人飛騨高山わらべうたの会の紹介

その3 ママ・パパの子育て応援



♪誰もが立ち寄れる子育てひろば運営(商業施設内)

♪ママの『困った』に寄り添う
ママの『やいばい!』を応援する⇒育児サポート(託児)

地域と子ども、
地域と子育て家庭を
つなぐ

♪地域ぐるみの子育て支援(ワイワイカフェ)

⇒ドコモ市民活動助成
より3年間助成頂く



2021年(令和3年)4月29日(木曜日)

高山市のNPO法人「飛騨高山わらべうたの会」が、地域の子育て家庭を支援する「びい・はやおサポーター」を募っている。サポーターは、親が困った時に子どもを預かったり、相談に乗ったりして、地域ぐるみで育児を支える。

同会理事長の岩塚久美子さん(56)は「どんなお母さんも取り残さない」という思いで始めた。気軽に頼ってもらえる立場を目指したい」と話している。(加藤佑紀乃)

高山のNPO法人 サポーター募集

「びい・はやおサポーター」制度は、子育て外出や入浴の補助が困難なママやパパをサポートする。精神的な不安や悩みを軽減し、「困った時」に頼れる場所が「びい・はやおサポーター」です。ママやパパの悩みを聞き、地域ぐるみで育児を支える。岩塚さんは「少しでも安心して子育てできるように、地域ぐるみで育児を支えたい」と話している。

サポーターは、保育士や子育て経験者、主婦、学生、会社員など、子育てに関心のある方であれば誰でも応募できます。応募は無料、サポーターの報酬は1時間あたり500円。

理事長の岩塚さん「どんなお母さんも取り残さない」

岩塚さんは、地域ぐるみで育児を支えたいという思いで、昨年10月の事業開始と同時に、地域ぐるみで育児を支える体制を自覚。昨年10月の事業開始と同時に、地域ぐるみで育児を支える体制を自覚。昨年10月の事業開始と同時に、地域ぐるみで育児を支える体制を自覚。

いっしょに成長

②調査の背景

●臨時休校・臨時休園



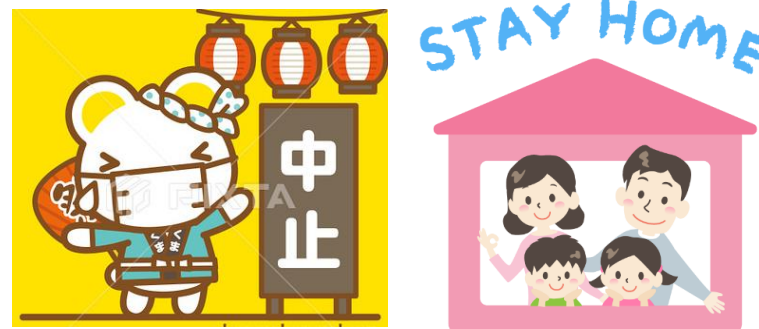
●児童センター・図書館などの閉館



●市の検診・赤ちゃん教室などの中止



●イベント中止・外出自粛



たくさんの子育て家庭が困窮・孤立した

産後うつ
虐待
ネグレクト

②調査の背景（私達がコロナ緊急支援として行ってきた事）

*コロナ禍により、孤立したり経済的に困窮した子育て家庭を支援

①ひとり親家庭・困窮家庭支援

- ・ひとり親家庭、産後うつ、ネグレクトなどの困窮家庭への支援
- ・自殺未遂をした母親の育児支援、抗うつ剤を服用している母親の育児支援など

②電話大作戦

- ・これまでの参加者一軒一軒に電話をかけて、様子を伺った。
- ・「流産して気持ちが落ち込んでました…」「子育てで悩み、うつになりかけていた…」と、涙ながらに話す母親もいた。

240件中92件(約40%)が
孤独や不安を抱える

50%を超える子育て家庭が孤独や不安を抱える

③市内全ての子育て支援関係団体を対象にアンケート実施

- ・市内全幼稚園、保育園、児童センター、学童、まちづくり協議会など
- ・「コロナ禍で母親や子どもの状況はどうだったか」「どのような支援を行ったか」「どのような支援が必要と思われたか」などを質問

④子ども宅食『わらぼぼ宅食』

⑤中学・高校の制服リサイクル

3年間にわたる地域ぐるみの
子育て支援体作りにより、
緊急支援活動がスムーズに！！

②調査の目的と概要（調査地、調査方法）

【目的】

- ①コロナ禍で浮き彫りになった、岐阜県の子育て環境の課題に対して、今後、行政と民間（地縁団体含む）が協働して解決にあたっていけるように、情報提供する
- ②「地域ぐるみ」という子育て支援環境は、「防災にもつながる」という意識をもって、子育て環境の整備を進めていけるように、提言も添えて情報提供する

【調査地】

岐阜県 42市町村

【調査方法】

- 岐阜県内の子育て支援団体にアンケートQRを送付し、利用者にオンラインで回答してもらった
- アンケート内容は岐阜大学今村教授のアドバイスにより、岐阜県内5圏域＋岐阜市の6地域に分けて実施（設問についてもアドバイスを頂いた）
- 中日新聞にアンケート協力のお願い記事と共に圏域別のQRコードを掲載し、子育て中の読者に回答してもらった

③調査概要（時期、対象者、設問、分析方法）

【調査時期】

2021年12月1日～2022年1月31日

【対象者】

岐阜県内42市町村の子育て家庭

【設問内容】

- 設問は全部で13問
- 年代、子どもの人数、家計に影響はあったか、孤独や不安を感じる事はあったか、子育ては誰が担っているか、緊急事態宣言期間、子どもはどうしていたか、子育ての相談は誰にしているか、どんな事が不安か、孤独や不安を感じた人は、その原因は何だと思うか、必要としている支援、コロナにおけるの子育て環境について、日頃思っている事はあるか、等

【分析方法】

- 圏域別に集計し、コロナ禍の家計への影響、孤独の実態、原因、不安要素等の傾向を分析する
- クロス集計により、年代別や子どもの数による回答の傾向を分析する



コロナ禍における子育て家庭の実態調査

岐阜県
全域対象

アンケートへの ご協力をお願いします!

NPO 法人飛騨高山わらべうたの会

こんにちは！私達は、飛騨地域で子育て支援の活動をしている、「NPO 法人飛騨高山わらべうたの会」といいます。

なかなか収束しないコロナ禍、子育て家庭の皆さま、いかがお過ごしでしょうか？この度、「ドコモ市民活動助成」を頂いて、このコロナ禍において、子育て家庭はどんな状況になっているかを調べさせて頂く事になりました。「子育てが大変になった」「経済的に困窮した」等、より大変な状況になったおうちもあるかもしれません。

逆に、「おうち時間が増えて、子どもとたくさんふれあえるようになった」というおうちもあるかもしれません。

様々な実態を調べて、県や各自治体、関係各所にお届けしたいと思います。ぜひご協力をお願いします！！

対象	0歳～18歳までのお子さんがいる家庭
回答時間	5分～10分 (できるだけ多くの声を関係各所に届けたいので、最後の記述式の所は、「こんな支援がほしかった」「こんな支援があってありがたかった」という事を何でもいいでご記入下さい。)
回答方法	右のQRコードを読み取って、ご回答ください (圏域別に集計します！)
回答期限	令和4年1月31日(月) 中濃圏域用

【お問い合わせ】
NPO 法人飛騨高山わらべうたの会
TEL 0577-57-8577 (FAX 同し)
高山市西之一色町3丁目820-1

HP QRコード 公式LINE QRコード

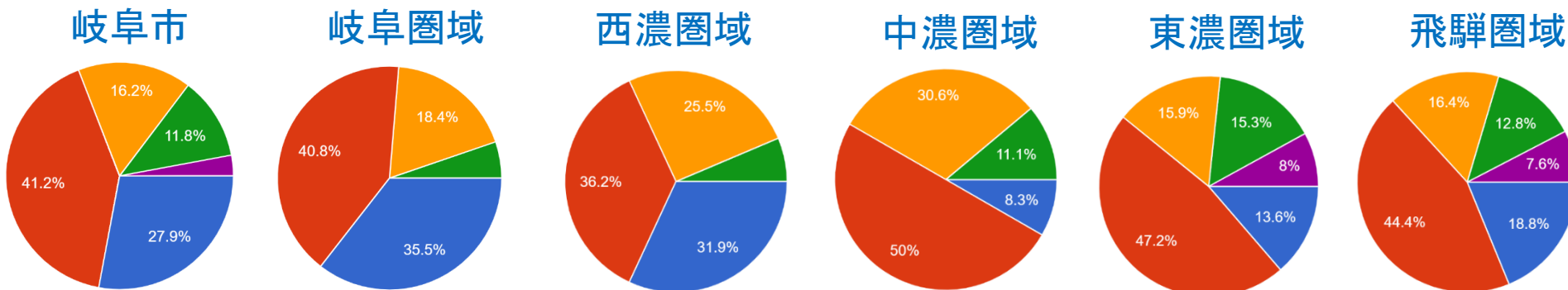
③仮説

- ①コロナ禍、「どこにも相談に行けなくて困った」「孤立した」と答えた子育て家庭は、**50%**を越えるのではないか(飛騨地域の実態から推測)
- ②「コロナにより少なからず家計に影響を受けている」と答えた子育て家庭は、**50%**を超えるのではないか(飛騨地域の実態から推測)
- ③都市部より山間地域の方が、孤立や孤独がより深刻な状況になったのではないかと。
- ④孤立・困窮の原因として、子育て支援が行政まかせ、民間団体(NPOなど)まかせになっているからではないか。
⇒各地域の地縁団体や地域を担う人たちも当事者意識をもち、**地域ぐるみ**で子どもを見守り、子育て家庭をサポートする環境づくりが大切なのではないか
- ⑤孤独・困窮の根本的な原因として、ひとり親などの働き方にも原因があるのではないかと。
⇒小さな子どもがいる為に、非正規雇用にならざるを得ず、今回のような経済活動の自粛により、真っ先に収入が減少するのは、このような子育て家庭ではないかと。

④ 調査結果（一部抜粋）

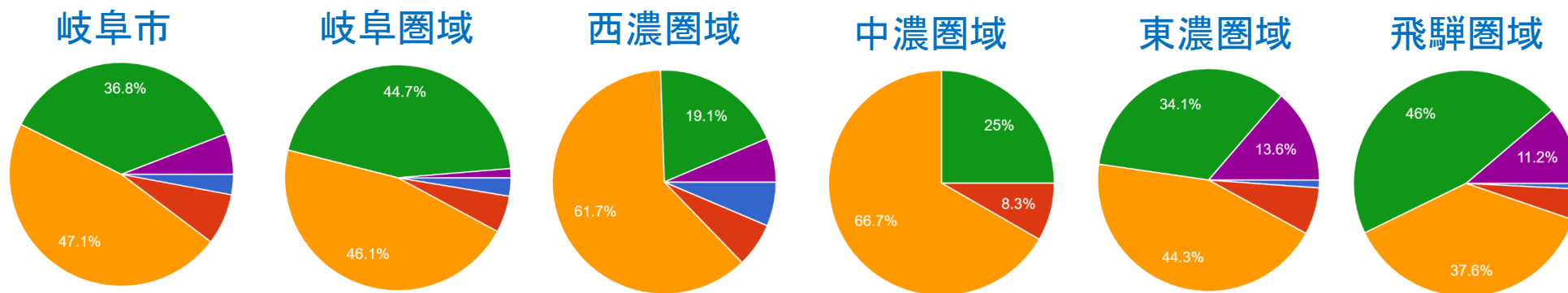
- 影響は全くない
- 影響はややある
- どちらでもない
- 影響はかなりある
- 影響は非常にある

④新型コロナウイルスの流行前と流行後で、家計への影響はありますか



赤と緑が「多少なりともある」と答えた人で、都市部より山間地域の方が多い

④新型コロナウイルスの流行前と流行後で、子育てへの感じ方の変化について教えてください



緑と紫が「孤独や不安を感じるようになった」と答えた人で、都市部より山間地域の方が多く、飛騨圏域では50%を超えている

- 楽しいと感じる事が多くなった
- どちらかと言えば、楽しいと感じるようになった
- 変わらない
- どちらかと言えば、孤独や不安を感じるようになった
- 孤独や不安を感じる事が多くなった

④調査結果（一部抜粋）

⑫必要としている支援・サービスを教えてください

岐阜市

岐阜圏域

西濃圏域

中濃圏域

東濃圏域

飛騨圏域

①経済支援	①親の交流の場	①特にない	①特にない	①親の交流の場	①経済支援
②育児サポート	②育児サポート	②経済支援	②経済支援	②経済支援	②親の交流の場
③親の交流の場	③地域の繋がり	③親の交流の場	③親の交流の場	③育児サポート	③育児サポート

【クロス集計から】

* 孤独や不安を感じると答えた人を、世代別に集計した

⇒孤独や不安を感じる世代として、30代、40代が多かった

* また、孤独や不安を感じると答えた人を、子どもの人数別に集計した

⇒子どもが1人、もしくは2人いる家庭において、孤独を感じるという人が多く見られた。

更には、子どもが2人いるという家庭の方が、より孤独を感じる傾向にあった。

【自由記述について:コロナ禍における子育て環境について思う事】

* ぎふハチドリ基金山田事務局長より、「自由記述の声をできるだけたくさん集めるといいですね」

とのアドバイスを頂き、自由記述の記載内容は、全て反映した(まとめの所で後述)

⑤分析

- 都市部や都市部周辺地域では、飛騨圏域と比べて、「孤独や不安を感じる」と答えた人の割合が少ない。⇒地形や人口分布が要因の一つと考えられる
- 浮き彫りになったのは、ワンオペ育児がかなりの割合見られたことである。
⇒育児に負担を感じたり、不安や孤独を感じるといった状況に繋がる
- 孤独や不安を感じると答えたのは、30代、40代に多かった。
飛騨圏域では、30代の割合が突出
⇒コロナ禍において一人目の子育てが始まり、交流する場、相談する場が失われる中、孤独を感じる母親が多かったという事が伺われる。
- 子どもが2人いるという家庭の方が、より孤独を感じる傾向にある
⇒小さな子と上の子を抱えて子育てに孤軍奮闘する母親が、家で子ども達とだけで過ごす中で、負担や不安が増大していったという事が伺われる。
- 孤独や不安を感じる人が、より山間部に多いという事から、コロナ禍での行動制限や交流機会の喪失によって、山間部ではとたんに孤立してしまうといった現状が伺われる⇒地域の中で、工夫して子育て親子をサポートしたり、地域ぐるみで交流する機会を作っていく事が必要なのではないか。

⑥まとめ（今回の調査結果からの提言）

①子どもの発育、成長について深刻な影響が出ている！

- * マスク生活による発育への影響を検証すべき
- * 不登校や情緒不安定、家で話さなくなるなど、メンタル面へのサポートが必要

②保護者（特に女性）に対する地域ぐるみのサポートを！

- * コロナ禍で妊娠、出産を迎えた女性は、交流したり相談する機会が少なく、孤立しがち
- * 特に、ひとり親、障がい児を持つ家庭、生活困窮家庭などへのサポートを、公的機関とも連携をとって行っていく（生きる事にさえ気力を失ってしまっているという声もあり）

③経済的な支援については抜本的な対策を！

- * 休園・休校・自宅待機などにより仕事を休まざるを得ない⇒収入が減る⇒困窮するという負のスパイラルへの対策・・・病児保育の拡充、雇用先の理解、地域ぐるみのサポートなど、様々な対策を検討する必要がある